

専攻科 6月4日（水）

第4回講座 「里山の生物調査実習（野外調査—森林）」

講師 北澤哲弥氏（江戸川大学講師）

日時 平成26年6月4日（水）10:00～15:00

場所 千葉市郊外（若葉区）「おぐらの森」

テーマは、雑木林の植生調査

北澤哲也講師による3回目の里山講座。千葉市郊外の小倉谷津に隣接する雑木林（おぐらの森）で16名が参加して行われた。新緑が美しい季節になったと前回のレポートで記したが、季節は梅雨の時期に移り、夏の日差しが照りつける天気と2週間後の小倉谷の雑木林の新緑は青葉に変わっていた。暑さも気にならない雑木林の快適な環境の中で、木本群落（植生）の調査実習を行う。毎木と林床にある草本と実生（種子から発芽したばかりの植物）を調べるのがこの日の調査内容である。

千葉都市モノレールの千城台北駅に集合し、徒歩約20分の距離にあるおぐらの森に向かった。森に着き、北澤講師から調査内容の説明を聞き、樹木環境ネットワークの後藤氏からはフィールドについてのガイダンスを受けた。午前、北澤グループと後藤グループに分かれ、樹木と林床の草本を観察した。午後からは、4人1班に分れて10X10mの広さ（コドラート）で毎木調査と林床の植生調査に入った。どの班も植物名の同定に苦労しておられたが、巡回される北澤講師の丁寧な指導とメンバーの協力し合いながらの作業のお蔭で調査は時間内に終わった。



北澤 哲弥講師と後藤氏



野外調査についての説明を聞く



雑木林の観察を続けながら、途中で立ち止まり講師を囲んで質疑応答が始まる。



落葉樹と常緑樹の葉の違いについての質問が出て、後藤氏は両方の葉を手にしてその違いを説明される。



落ち葉溜め。後藤氏が落葉を払って一掴みの土を掘り出すと、カブトムシの幼虫がまるまると育っていた。



葉脈がきれいでしょう！立ち止まってミズキの葉を見せてもらった。くっきりした葉脈だ。



たくましい植物。倒木から若葉が育っていた。どうやって水分を補給するのだろうか？



締め殺しの木と異名をもつフジ。これは残骸。成長も早い、朽ちる時間も早いようだ。



午後からは4班（各班4人）に分れて
毎木調査を行った。胸高調査を行う第
1班のメンバー



胸高と樹高を行う第3班のメンバ
ー。記録係りと測定・補助係りに
役割分担し調査を行った。



胸高は地上 1.3m。その高さで幹の周
辺に直径巻尺を当てて測定する。第4
班のメンバー



1.3mにこぶがあり、下にずらして測
定する。この位のずらしは誤差の範
囲内。



木の根元で測定ポールを伸ばし、樹
高を測定中の第2班のメンバー



北澤講師の指導で林床の草木と実生
（みしょう）の調査を行う。